

教育支援ステーション事業の評価について

1 事業概要

専門看護師、認定看護師または人材育成の経験を有する管理者が在籍する訪問看護ステーションで、地域の訪問看護ステーションとのネットワークを構築し、訪問看護に関する実務研修や訪問看護実習（同行訪問）等について他の訪問看護ステーションに勤務する看護師を受入れる「教育支援ステーション」の機能を果たす訪問看護ステーションに対し、その経費（研修経費及び同行訪問経費）を補助する。

| 年度 | H28 | H29 | H30 | R1 | R2 | R3 | R4（予定） |
|------|-----------|-----|----------|----------|----------|----------|---------------|
| 事業形態 | モデル事業（委託） | | 補助事業 | | | | 補助事業 |
| 実施箇所 | 3箇所 | | 8 医療圏 | 7 医療圏 | 4 医療圏 | 5 医療圏 | 政令市への 補助廃止 |

2 成果

○ 二次医療圏ごとの成果

| 医療圏 | 教育支援ステーション | 補助年度・成果 |
|------------------|--|---|
| 横浜 （北部・西部・南部） | （一社）横浜在宅 看護協議会 | 補助年度：H30～R3（終了） 4年間で延べ■■■人が研修を受講、■■■件の 同行訪問を行った。 補助終了後も事業継続の予定。 |
| 川崎（北部・南部） | （公社）川崎市看 護協会 | 補助年度：H30（終了） ■■■人が研修を受講した。 R1年度からは協会の自主事業として実施で きると判断したため、補助を終了している。 |
| 相模原 | 相模原市訪問看 護ステーション 管理者会 | 補助年度：R1, R3（終了） R2年度はコロナの影響により事業を実施で きななかった。 2年間で延べ■■■人が研修を受講、■■■件の 同行訪問を行った。 補助終了後も事業継続の予定。 |
| 県央 | （医）ジャパンメ ディカルアライ アンス JMA 海老 名訪問看護ステ ーション | 補助年度：H30～R1 R2年度からはコロナの影響により事業を実 施できていない。 2年間で延べ■■■人が研修を受講、■■■件の 同行訪問を行った。 |

| | | |
|--------------|---|---|
| 湘南東部 | (公社)神奈川県 看護協会 かが やき訪問看護ス テーション | 補助年度：H30～R3 4年間で延べ■■■人が研修を受講、■■■件の 同行訪問を行った。 |
| 湘南西部 | (医)三喜会 鶴 巻訪問ステーシ ョン | 補助年度：H30～R1 R2 年度からはコロナの影響により事業を実 施できていない。 2年間で■■■人が研修を受講、■■■件の同行 訪問を行った。 |
| 県西 横須賀・三浦 | — | 事業所数や地理的な事情等により教育支援 ステーションを担える事業所がなく、事業実 施に至っていない。 調査の結果によると、県西では地域の病院や 職能団体によって研修が開催されている。 |

※ 横浜、相模原、湘南東部の受講者数、同行訪問数について、R3 実施分は予定数で算出している。

○ 教育支援ステーション、研修受講者の声

| | |
|------------|--|
| 教育支援ステーション | 「システム化されて効果が上がってきている」 「多くの研修を実施することができ、担当者のモチベーショ ン向上に繋がっている」 |
| 研修受講者 | 「実技を通して、自分が気づけなかった部分に気づけた。」 「利用者さんへのケアで実践し、気持ちがよかったと言って もらえた。」 |

3 まとめ

全県で訪問看護師への教育支援体制が整うことをゴールとして、4年間事業を実施してきた。訪問看護に従事する看護職員は近年増加を続けており、今後も訪問看護師の養成、教育支援体制の整備は重要な課題である。

本事業により教育支援体制の整備が進んできたところもあるが、政令市については令和3年度で補助を終了することとなっており、今後の体制を注視するほか、どのような支援が必要とされているか、県としてどのような支援が可能か、検討していく必要がある。

政令市以外の地域では、今後も補助を継続するが、最終的には自走化を目指している。コロナの影響により事業を中止している事業所もあるので、状況を見ながら、事業を実施できるよう調整していく。

県西、横須賀・三浦では、事業所数や地理的な事情等により、本事業の実施が難しい状況にある。二次医療圏単位ではなく市町村単位等での事業実施や、別の形での支援ができないか、検討していく。